

岩槻協議会 会報

第22号

挨拶

岩槻協議会会長

深井 義司



五月「皇位継承により「令和」の新時代となり、秋には天皇陛下が「即位」を国内外に宣言し、祝賀パレードも行われました。更に、「ラグビー・ワールドカップ」大会の日本代表の大活躍で日本中が盛り上がりました。その反面15・19号台風による自然災害に見まわれた厳しい一年でもありました。

今年の事業活動を振り返りますと9月の「第一回・学習講演会」をはじめとして、10月には、岩槻駅前での「赤い羽根共同募金」活動と岩槻文化公園での「グラウンド・ゴルフ大会」、11月

は、3日の文化の日には「第七回・城下町岩槻鷹狩り行列」に参加、8～10日は「第十一回・文化祭」を開催、今年の演芸発表会では、各期校友会のコースや民舞、民踊、フォークダンス等創意工夫された演技に、更に今年の新企画・特別出演として、地元中学生の「琴演奏」と地域児童による煌びやかな衣装の「あなたは可愛いおひなさま」の踊りのコラボレーションの熱演に観客席からの大きな拍手で盛り上がりました。

城址公民館での作品展示においては、素晴らしい力作作品ぞろいで多くの来場者が鑑賞されました。

「ホームページ委員会」の新設あり、2月には「連合会文化祭」への参加、3月には「第二回・学習講演会開催」、今年度の活動もいよいよ「さいたまマーチ」を残すのみとなりました。

今年一年間の活動に対し各期の会長、協議会の理事、会員の皆様のご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。

7月には東京五輪が新国立競技場等で開催されますので、応援し、楽しみ、明日の活力にしましょう。

最後に、人生百年時代をより充実していく為、健康長寿を目指しましょう。

「なぜ生きる」について

一期 渡辺 省三

私は生まれてから七十八年経ちました。生まれてから年がたつにつれて煩惱が大きくなり増えました。物が欲しい、女が恋しい、地位が高くなりたいたい。現在は結婚して妻子と孫がいます。しかしそれを除いた煩惱は弱くなりつつあります。



煩惱は生きている限りなくなりません。七十歳ごろから、「俺は何のために生きているのか」と考えるようになってきました。煩惱が弱くなったからでしょうか。

煩惱が全くなかった人間はただ生きていく生命体にすぎません。私はまだ少しですが煩惱があります。喜怒哀楽もあります。

「何のために生きる」「なぜ生きる」私にとって生きるとは「何の・・・」でも「なぜ・・・」でもありません。

仏教では「浄土へ逝くために生きる」と言います。私は「浄土」など信じません。

私は授かった命をひたすら懸命に生きるだけです。いきつづけて天寿を全うするのです。生きているから生きつづけるのです。

これが「なぜ生きる」にたいする私の答えです。

「今の私」

二期 大和 邦博

皆さん今日は。シニア大学の文化祭が終わると今年度も残り少なくなりです。今期は令和と年号が代り新しい気持ちで良い年になると思っています。したが、夏は猛暑が続きました。

私も春から体調を悪くして大変でしたが、5月ごろから普通に戻り趣味でやっている切り絵もできるようになりました。切り絵を習い始めて今年で3年目に入りました。今は作品にする切り絵の画材を探すのが大変な苦勞です。画材を見つけて、自分の力に合った画材を原画に作成するのが一番の仕事です。切絵を原画にするのに半月

ぐらいかかり切り絵して作品までは一ヶ月以上の手間が掛かります。これからは、浮世絵、季節の風景、東海道五十三次などを考えています。もう八十才になるので後何年切り絵が出来るか自分の体調に合わせて長く文化祭の作品として出すように、自分に挑戦をします。

令和に入り自然災害の多い年でしたが災害に負けずまだまだ頑張ります。皆様ありがとうございます。



ひがし茶屋街

「川の流に沿った一日」

三期 丸山 久行

今朝まで曇りの空が岩槻を出発するころにはすっかり晴れわたり、春日部経由で浅草に向かった。吾妻橋で東京クルーズ船に乗り浜離宮で下船した参加者十七名は深まりゆく秋空の

もと、江戸時代の代表的な大名庭園として三百六十余年に亘り海辺を彩つてきた景色を楽しみながら散策、また乗船して日の出棧橋に向かいゆりかもめの日の出駅からお台場海浜公園に向かいシーサイドモールの食事処で昼食をとり僅かな時間の中で散策と買い物を楽しんだ。



予定していた「自由の女神」像へは届かなかつたが江戸時代に築かれた台場の雰囲気は少しばかり感じられた。

午後再びクルーズ船に乗り日の出

棧橋で乗り換え隅田川を北上、船上から石川島、両国国技館、神田川河口、東京タワー、吾妻橋までの十三橋を下から見学、最後に陽射しを浴びて聳えるスカイツリーを横に見て浅草に到着、岩槻へ無事帰着した。

「江戸東京博物館の見学」

四期 宮谷 武男

素晴らしい天候に恵まれた一日。三月三〇日大宮駅に集合したが、JRの事故の影響により大幅に遅れた電車以最寄り駅の両国に到着しました。

江戸東京博物館は二階から六階の入り口までエスカレーターで進むが、エスカレーターが江戸時代へのタイムトンネルとなり、六階入口から実物大に作られた日本橋を渡り、ノボリのはためく芝居小屋や江戸の街並み、大名屋敷等見ていると、江戸時代にタイムスリップしたような気になってしまいました。



江戸時代は武家社会のため、五十万人ほどいた町人の大部分は風

呂、トイレなしの間口九尺奥行二棟割り長屋に夫婦と子供が住んでいました。実物大に作られた狭い長屋を見てみると、八さん熊さんが大家さんへの店賃の言い訳や井戸端で洗濯をしながらのおかみさん達のおしやべりが聞こえてくるようでした。

駅前にある元大関力士と同名の店で、現役時代の大関の相撲をビデオで見ながら、博物館見学の疲れを仲間との談笑で癒しながら、ちゃんこ鍋の昼食をおいしく食べ、今日一日の楽しい思い出をお土産に満足して家路につきました。

「リニア見学センターへのバス旅」

五期 橋本 紘

十二月三日、五期の二十四名は、山梨県にあるリニア見学センターに行つてきました。

リニア中央新幹線は、東京、大阪間428 kmを超電導リニアにより67分で結ぶ新幹線です。

この見学センターは、時速500 kmで走行する超電導リニアを間近で見られる施設ですが、当日は新型車両切り替えのため実際には見られず残念でした。その代わりに磁気浮上走行が体感できる「ミニリニ

ア」に乗り、リニア新幹線に乗った気分を味わってきました。



この開発は、昭和三十七年に超電導リニアによる車両の研究が宮崎県で始まり、五十年あまりの年月を経て平成二十七年に有人では世界最速の603 km/hを記録しました。

平成二十四年、JR東海により東京、名古屋間の計画が認可され、八年後の令和九年に開業の予定です。皆さん、実際のリニア新幹線に乗れるよう元気で頑張りましょう。

当日は、一日中快晴でバスの中からは色々な角度から冬化粧した富士山を見ることができ、皆さん大満足の様子でした。

「陣馬山ハイキング」

七期 茂木 伸子

好天に恵まれハイキング日和の十二月四日に、陣馬山に登りました。直行バス道が台風十九号で通行止めになったため、コースを変更して藤野駅から歩くことになりました。登山口で支度を整え登山開始です。最初は急登も少しありましたが道端も広くなだらかな歩きやすい山道です。木々の間からは雪のかぶった富士山が見え隠れし、紅葉も丁度いい時期だったので楽しく登る事ができました。



山頂ではシンボルの白馬の像が設置されていて感激しました。ここからは三百六十度の眺望が広がり、八王子の街が眼下に見え、周りの山々は色づいて素晴らしい光景です。そんな中で

のお弁当は格別です、いつものようにお茶やコーヒーを飲みながら楽しい時間を過ごしました。

「誠実で元気な楽しい仲間の集り」

八期 松本 正司

とにかく八期校友会のメンバーは仲間思い誠実で元気な仲間だ。なぜって、情報はメンバー全員が即日情報を共有するため、毎月理事会が終わつた後に全体会議が行われるからだ。



理事会の情報が班長などを經由し伝える間接的情報の共有ではない。直接情報提供はメンバーに対するにじむものだ。元気で楽しい仲間づくりは班活動、

クラブ活動にも表れている。

十月五日・二班の活動「こしがや能楽堂での能(秋の調べ)」は校友会行事。

十月三十日・史跡めぐりクラブ「県立美術館鑑賞及び川口オートトレス観戦」はオープン企画、直近では十二月五日・ハイキングクラブ「つくば公園通り散策及び筑波宇宙センター見学」もオープン企画など皆が楽しい元気な仲間だからこそできることと思う。

「能楽鑑賞のひと時」

九期 内田 恵子

縁を際立たせる梅雨らしい雨の降る六月二十四日、国立能楽堂へ総勢十四名で能楽鑑賞に行ってきました。一度は本物の能を観てみたいと思っていたので楽しみにしていました。

「能」と「狂言」を総称して「能楽」と呼ぶそうです。六百年以上も続く日本最古の伝統芸能です。今回の演目は、狂言が「文立山」で人間味あふれる山賊を誇張した演技をすることでおおらかな笑いを誘い、私たちを楽しませてくれます。

能は「船弁慶」で源平合戦から材料をとり、静と動の対照的な演技が感動的であり、時には幽玄の世界

へいさな優雅な美しさが心を魅了します。どちらの内容も人の心の変化や有り様は忙しい現代を生きる私たちにも通じるものがあると思えました。



大宮まで戻り、Sさんのご厚意で美味しい食事を頂き、楽しいおしゃべりをして帰路につきました。心もお腹も満たされた素敵な一日でした。

この企画にご苦労された方に感謝いたします。

「日光東照宮と渡良瀬渓谷」

十一期 鶴木 愛子

埼玉りそな銀行前に二十七名が集合し、日光東照宮に向かつて出発。どんより曇った寒い朝でした。午後から

晴れとの予報でしたが、日光東照宮に着いた頃は晴れ間はなく、防寒着を纏っても震える寒さ！
真つ赤なブレザーを着たガイドさんの「地味な服装で」の自己紹介から始まった綾小路きみまろ風の毒舌、軽妙な語り口に爆笑しながら、平成の大修理を終えた建物や彫刻など見て回りました。



東照宮、陽明門、眠り猫の彫刻、五重の塔など、二十五年位前に訪れた時は修理中で見る事ができなかった建物がきれいに修復されていました。多くの建造物や彫刻、鳥居までが国宝や重要文化財に指定されています。

前回の時には、観光客の姿は少なく、

パラパラと日本人と猿がいたくらいでした。また、東照宮に続く道の暗く鬱蒼とした杉木立の景色に寂れた感じがしましたが、今回の旅では多くの外国人客でいっぱいでした。
この後天気も晴れて紅葉真つ盛りの渡良瀬渓谷へ行きました。

「殿ヶ谷戸庭園散策」

十二期 森吉 あや子

私達、花散策クラブは、四季折々の花や自然を求めて、楽しく散策しております。

十一月二十七日に国分寺の駅近くにある殿ヶ谷戸庭園に参加者十名で出かけました。この庭園は武蔵野の自然の地形をいかし、斜面を利用した庭園で国分寺崖線と呼ばれる崖の下に湧き水が豊富に出ており、この湧き水を利用して池が作られています。

三菱財閥の岩崎家から都が買収し有料公園として昭和五十四年に開園しました。曇天でしたが、ガイドさんの説明を聞きながらゆっくり園内を一周しました。高台にある「紅葉亭」から見下ろすと湧き水によって出来た

「次郎弁天池」があり、周囲のイロハモミジが紅葉して素晴らしい景色でした。庭園を出た後「貫井神社」と「滄浪泉園(そうろうせんえん)」を歩いてまわり、武蔵野の紅葉を満喫して帰りました。



編集後記

会報22号の編集で文化祭の各期の写真を従来の三枚から二枚にして大きく見やすくなりました。投稿にご協力ありがとうございました。編集の過程でミスがありましたらご容赦ください。

令和元年度

第十一回文化祭開催

十一回を迎える岩協文化祭が十一月八日から十日にかけて城址公民館と市民会館いわつきにおいて開催。

作品展は八・九日の二日間城址公民館で七十二作品が出品され、二日間で二七八人が来場され盛況であった。

演芸発表会は十日に市民会館いわつきで岩槻区長はじめ連合の各校の会長など多くの来賓の列席のもと開催。今年度は初めての企画として岩槻区内の中学生と地域児童における「琴と踊りのコラボレーション」が導入され、この新しい試みが他校や校友会から高く評価された。

山崎実行委員長の開会の言葉に始まり、関根副岩槻区長・仕事ラボ桑原事務局長から挨拶をいただいた。

演芸発表は各期から十五演目が発表され日頃の練習の成果を十二分に発揮。中でも八期踊り隊による東京五輪音頭二〇二〇の聖火の入場やオリンピックキャラクターなど、趣向を凝らした演出が観客を魅了した。

フィナーレは全員で「今日の日はさようなら」を合唱。盛大なうちに散会となった。



作品展は様々なジャンルから多くの力作が寄せられ見ごたえのあるものとなった。特に2期の皆さんと12期の方からは総数26点の出品があり参加意識の高さを感じる素晴らしいものでした。次回も楽しみです。



山崎実行委員長開会の辞



深井会長挨拶



関根副区长ご挨拶



地元中学生による琴の演奏



地元小学生によるひな祭り



1期コーラス ドリームハーモニー 若い二人 プンガワンソロ しあわせのうた



2期合唱 校ラス会 古城 港町十三番地



メレ・フラ・ニキ 歌とフラダンス



3期 シニア ハンドベル & パフォーマンス 虫の声 とんぼのめがね たきび 他



4期 ダンス リズムクイーン

朗読 「耳なし芳一」



5期一同によるフォークダンス 2020 音頭 グーフス ダンシング・インザ・ストリート



7期 てまり会 民謡 ビューティフルサンデー 高原の駅よさようなら



8期 踊り隊 東京五輪2020音頭



岩槻区民健康体操



9期合唱シルバー隊 カチューシャの唄他



楽しく踊り隊 ズンパ音頭 東京五輪音頭



11期 一同 踊り 長生き音頭



12期オールスターズ三波春夫東京五輪音頭1964



マツケンサンバII